

CWA NEWS



会長あいさつ



千葉ウィスコンシン協会
会長 茂木 友三郎

令和4年最初のCWA NEWSの発刊に当たりご挨拶申し上げます。

日頃より千葉ウィスコンシン協会の交流事業等に格別のご理解・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、千葉県とウィスコンシン州との提携は1990年に始まり、その後姉妹交流組織である当協会が2004年に設立され、以来当協会が千葉県側の窓口となって交流を推進してまいりました。

この間、県が築いた友好関係を更に発展させるべく、幅広い分野で民間レベルの活動を展開してきたことにより、地域に根ざした交流の輪が着実に広がり深まってきております。

また、2009年の新型インフルエンザや2011年の東日本大震災で友好使節団の派遣受入れ事業が中断することもありましたが、関係各位のご尽力により交流を続けてまいりました。一昨年から続く新型コロナウイルスの感染拡大についても、これまで同様必ずや乗り越えられるものと確信しております。

昨年12月末には姉妹提携30周年記念誌の発行とビデオメッセージの交換により、これまでの姉妹交流を振り返るとともに、今後の交流の更なる発展を祈念し、両県州の強い絆を確認しました。

今年は、一昨年に予定していたウィスコンシン州友好使節団受入を実施すべく準備を進めておりますが、現在の新型コロナウイルスの感染拡大の状況下においては予断を許さない状況にあります。そのため、新型コロナウイルスの感染状況等を注視しつつ、県やウィスコンシン千葉委員会とも連携しながら対応してまいります。

今後ともウィスコンシン州の皆様は千葉県の良さや県民の素晴らしさをご理解いただければ、交流の輪を一層広げ、友好を深めていきたいと思っております。

結びに、当協会の交流事業等につきまして、今後とも当協会の役員、会員をはじめとする皆様方の一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げ、挨拶といたします。

ウィスコンシン州出身のALTを紹介します！

県内の学校には多くのウィスコンシン州出身のALTが活躍しています。

ALTとは、Assistant Language Teacherの略で、外国語を母国語とする外国語指導助手をいいます。

現在県内の小・中・高等学校には、英語力の向上や国際理解を深めるため多くのALTが配置されています。そのうちウィスコンシン州出身のALTを紹介します。



顔写真左から

Julie Mae Engelmann
県立流山おおたかの森高等学校

Joseph Simurdiak
県立流山おおたかの森高等学校

Max Gumble
県教育委員会ALTプログラム
コーディネーター

前列左から

Clara Faile

Tyler Jossart

Jon Kangas

Grace Burzinski

Hanna Nam

Libby Sattler

Josephine Kirkland

Lewis Hurd

Jamison Taube

Alexie Bollman

いすみ市立岬中、長者小、
中根小、大原小学校

県立松戸国際高等学校

県立佐倉高等学校

県立千葉東高等学校

県立成田国際高等学校

県立成田国際高等学校

旭市立第二中、干潟小、
共和小学校

県立松戸国際高等学校

県立東金高等学校

県立千葉南高等学校

後列左から

Carly Rowley

Matt Vosters

Ben Alden

Matt Rath sack

Alexis Lipkie

David Garcia

James Aguilo Ramos

Sophia Silva

Grant Smith

いすみ市立大原中、
長者小、大原小学校

県立松尾高等学校

県立匝瑳高等学校

県立土気高等学校、

県立千城台高等学校

県立安房高等学校、

県立長狭高等学校

県立柏井高等学校

県立君津高等学校

県立松戸国際高等学校

大網白里市立大網中学校

〈新しいALTのみなさん〉

新しいALTのみなさんに以下の質問をしました。

- 1 簡単に自己紹介や自己PRをお願いします。
- 2 なぜ、千葉県のウィスコンシンALTプログラムに参加しようと思いましたか？
- 3 日本へ来る前と日本に来てからで日本に対する印象が変わりましたか？
- 4 コロナ対策(手洗い、消毒、3密を避けるなど)に関して、アメリカと日本で何か違いを感じますか？
- 5 ALTの仕事が終わった後、日本とアメリカのどちらで働きたいと思いますか？また、その理由を教えてください。
- 6 現在働いている学校とアメリカの高校との違い等について教えてください。



James Aguilo Ramos
県立君津高等学校

1 私はスペイン出身で、カレーライスが大好きで、日本に住むのが夢でした！

2 TESOLの修士号取得の最終目標は、日本で就職することでした。日本で教えることがテーマのシンポジウムに何度か参加し、発表者のひとりがこのプログラムについて話してくれました。そして、このプログラムは私にぴったりだと思いました。もし受かったら、日本に行って(最高です)、私の好きな英語を教えて、プロの先生から日本で教える方法を学ぶことができるのです。

3 日本における第二言語の学習の問題点について読んだことがあったにもかかわらず、私は日本の子供たちが皆、英語を流暢に話せるものと期待していました。この国でどのように英語が教えられているのかを実際に体験してみると、本当に衝撃的でした。

4 アメリカは、自国の文化の特殊性に直面すると、どんどん規制が甘くなった気がします。日本では、長期的に厳しい衛生規制を支持する文化があるようです。

5 今の時点では、日本で働きたい。健康保険はとても重要な問題です。あと、銃が思いのほか怖いです。一般的には、日本の方が安全だと思います。でも、だからといって、アメリカを愛していないわけではありません(心から愛しています！)。

6 部活!スペインにはそれがありません。私にとっては、まったくもって驚異的なことです。子供のころ経験できなかった楽しみを埋め合わせるために、できるだけ多くのクラブに参加するようにしています。また、アメリカやスペインの子どもたちに比べて、日本の子どもたちはかなり静かな気がします。



Matt Rath sack
県立土気高等学校
県立千城台高等学校

1 私は22歳で、高校生のときから日本に興味を持っていました。食べ物や美しい景色、楽しい時間を過ごすことが好きなので、日本はまさに私が望んでいた通りの国でよかったと思っています。

2 私がこのプログラムに参加しようと思ったのは、日本語をもっと上手になりたいと思ったからです。また、将来は教師になりたいと思っているので、このプログラムを通して目標を達成することができます。

3 日本は私にとって、ずっと夢の国のように思っていました。しかし、日本に住んでみて、日本とアメリカの違いがよくわかりました。日本での生活も楽しいですが、今は本当のところ日本とアメリカの違いを実感しています。

4 日本は、新型コロナの面ではアメリカよりずっと安全だと思います。除菌機が多く、マスクをしている人が多く、距離をとるためにテーブルをブロックしているところが多い。

5 私はアメリカで働きたいと考えています。妻と話し合った結果、家族のこと、そして食物アレルギーのことを考えると、アメリカがいいと思いました。妻は病気のためグルテンを食べることができず、日本にはグルテンフリーの選択肢があまりないため、ここでの食事はとても大変です。

6 日本の学生の礼儀正しさ、尊敬の念には感心させられます。こちらの学生はいつもとても親切で思いやりがあり、それが私が日本の好きなところのひとつです。



Libby Sattler
県立成田国際高等学校

1 こんにちは! ウィスコンシン州シダーバーグ市から来たりびです。ウィスコンシン大学マディソン校で教育学とフランス語を専攻し、TESOL (英語を母語としない方への英語教授法) を副専攻して卒業しました。現在、成田国際高校でALTとして働いています。

2 千葉とウィスコンシンの関係は、このプログラムに応募しようと決めるずっと前から知っていました。数年前から、幕張総合高校の英語漬けサマーキャンプでボランティアをしていました。ウィスコンシン州の文化を生徒たちと共有することがとても楽しく、その経験を通じて千葉・ウィスコンシン州のプログラムについて知りました。

3 日本に来る前は日本のことをほとんど知らなかったのですが、毎日新しいことを学んでいます。日本の生活には様々な側面があり、誰でも楽しく暮らせる...そんな気がします。私は料理が好きなので、日本料理について学んだり、家で料理をしたりすることが趣味になっています。

4 昨年の夏、アメリカを離れたとき、マスクをする人はほとんどいなくなりましたが、新型コロナ予防の習慣について、人々の間に緊張が走っているのを目撃しました。日本では、コロナ対策がさらに切迫し、一体的に取り組んでいるように思います。

5 今のところ、日本での生活はとても楽しいですし、語学教育に携わる仕事を続けたいと思っています。今はできるだけ日本語を勉強していますが、いずれはプロフェッショナルなレベルに到達して、日本でキャリアを積んでいきたいと考えています。

6 こちらの高校はとても変わっています。マイナス面は、生徒が受ける試験がアメリカよりずっと多く、難易度も高いことです。しかし、私の学校の生徒たちに教えることは素晴らしく、多くの生徒が英語を学ぶことにとても熱心です。全体として、日本とアメリカの高校生は違うというより、似ていると思います。



Julie Mae Engelmann
県立流山おおたかの森
高等学校

1 故郷ではありませんが、人生の節目の大半を過ごしたウィスコンシン州ミルウォーキーから流山に引越してきました。金属加工とデジタルデザインと製造の学士号を取得しています。余暇には、アウトドアや料理、クリエイティブな活動を楽しんでいます。

2 充実したサポートとプロフェッショナルなプログラムのように思えました。特に母国と違う方式で働くに際し、詳細な契約書があるのは心強かったです。

3 日本の印象は、確実に地に足がついたものになっています。こちらに来る前は、NHKのニュース番組でさえも非常にポジティブな印象があり、日本は牧歌的な国だという印象がありました。しかし、来てからは、人間は人間であり、多くの普遍的な要素を共有していることに気づかされました。

4 除菌と体温チェックはほぼ同じです。予防接種やPCR検査は、2021年夏の終わりには予約不要で気軽に受けられるようになりました。一方、マスクは強制されるものではなく、必要かどうかは本当のところ事業者の判断次第でした。

5 プログラムの始まったばかりで言うのは難しいですが、どちらの国で働くにしても魅力的な理由がたくさんあります。理想を言えば、このまま国際的な仕事の経験を増やしていきたいです。

6 私が住んでいた地域の高校は、一般的にクラスの人数が少なく(生徒数が同じでも)、生徒は先生の教室に通うことになります。クラブ活動もそれほど盛んではありませんでしたが、学校のpride days(*)や集会があり、同じような華やかさを感じることができました。個性、多様性、自己表現がより受け入れられています。カリキュラムの構成も異なり、成績をつけるために生徒のディスカッションへの参加が必要でした。

*生徒に自分の学校に対する誇りを感じてもらうため、全員がスクールカラーの服を着て登校するなどして生徒の気持ちを盛り上げるイベント。



Alexis Lipkie
県立安房高等学校
県立長狭高等学校

1 私はウィスコンシン州北部の小さな町で育ちました。2020年12月にウィスコンシン大学マディソン校を卒業し、日本語と政治学の学士号を取得しました。趣味は、ハイキング、映画鑑賞、旅行です。

2 大学時代、日本語を学ぶ高校生の家庭教師をするボランティアに参加し、とても楽しい経験をしました。また、日本に興味があり、その文化についてもっと学びたいと思いました。

3 このプログラムの前にも何度か日本に来ているので、あまり変わりません。しかし、こちらの高校で働くことで、ほぼ毎日新しいことを学んでいる気がします。

4 何とも言えませんが、日本の方がマスクをしている人が多いと思いますが、アメリカでは公共の場で手の消毒液や石鹸が簡単に手に入ります。

5 未定です。

6 アメリカの高校では、教室でより多くのテクノロジーが使われています。どの部屋にもプロジェクターがあり、生徒たちはプロジェクトなどでiPadやコンピューターにアクセスできます。一方、こちらの学校では部活動が盛んで、ほぼすべての生徒が参加しています。母国では、選べるクラブが少なく、どれにも参加しない人がかなりいました。

新任ALT2020/2021の皆さんを 和楽器でWelcome!

新任ALT歓迎会が10月24日千葉市蘇我コミュニティセンター『大広間』で開催されました。出席者は昨年と今年に来葉したALT6名、浅沼社中の5名、運営委員等11名です。テーマが和楽器体験のため、今回初めて会場を和室としたことで、これまでとはガラッと変わった光景となりましたが、結果的に日本文化の紹介に相応しい会場でした。

午後1時前、浅沼社中による『It's A Small World』の歌と演奏で始まり、森山委員長挨拶、参加者紹介と続きました。そして、浅沼社中による『九十九里大漁節』『東京音頭』の歌と演奏で盛り上がった後、いよいよ本日のメインであるALTの和楽器体験へと進みました。

最初に、浅沼社中の模範演奏で『上を向いて歩こう』『幸せなら手をたたこう』『散歩』が歌とともに披露され、ALTの和楽器体験へと続きます。まずALTは太鼓と三味線と尺八の3グループに分かれそれぞれが浅沼社中のメンバーから『上を向いて歩こう』の演奏方法を教わります。頃合いを見計らって、浅沼社中の皆さんも含め全員で演奏します。続いて、各グループは別の楽器に移り次の曲の演奏方法を教えてもらうやり方を繰り返します。なお、尺八については同様の音色が出せるヤクルトの空容器で代用するなど、浅沼社中の皆さんの創意工夫に感心しました。

今回、浅沼社中のメンバーが短時間で楽器演奏のコツを身振り手

振りで教える一方、ALTも積極的かつ楽しそうに挑戦していて、こうした交流を

通じて参加者の気持ちも徐々に和んできていることが感じられました。体験後、ALTの方々から出身地や趣味などの自己紹介が英語または日本語で行われ、会場内は和やかな雰囲気になりました。最後に全員で記念撮影をして終了しました。



和太鼓



三味線



尺八(ヤクルト空容器)



全員で記念撮影

CWAからのお知らせ

令和4年度の理事会及び総会・交流会については、右記のとおり予定していますが、新型コロナウイルスの感染状況等によっては書面表決等での対応も必要と考えています。会員の皆様には、総会等の開催内容について郵便によりお知らせします。

令和4年度 理事会
5月31日(火)ホテルポートプラザちば
令和4年度 総会・交流会
6月19日(日)ホテルプラザ菜の花
総 会:11時から
交流会:12時から

【編集後記】

コロナ禍において昨年は姉妹提携30周年記念誌を発行するとともに、両県関係者のビデオメッセージを交換することが出来ました。現在来年度の交流事業の見通しが立てにくい状況にありますが、新たに交流イベント等の動画配信に取組むほか、新型コロナウイルス感染拡大収束後の交流活動再開に向けて準備を進めてまいります。

発行所：千葉ウィスコンシン協会

発行人：森山茂男 編集：広報部会

<http://chiba-wiconsin.net/>

〒261-7114 千葉市美浜区中瀬2-6 WBGマリビースト14階
(公財)ちば国際コンベンションビューロー内

*電話でのお問い合わせ ☎043-223-2394(千葉県国際課内)